

農地利用最適化の最前線

頑張る農業委員・農地利用最適化推進委員

朝来市農業委員会 会長

米田 利秋さん(66)

改正農業委員会法により、農業委員会の重要な業務に位置づけられた「農地利用の最適化の推進」。

農業委員や農地利用最適化推進委員は、農地の利用状況調査や遊休農地の利用意向の確認のほか、規模縮小農家と担い手のマッチング、人・農地プランの作成・見直しへのアドバイスなどのため、時には夜間にも農家訪問や会合へ出席することもあるなど、精力的な活動をしている。

◆ 「委員として何をやってほしいのか」と相談されます

が、集落のために、自分なら何ができるから考えてほしい」と話すのは、朝来市農業委員会の米田利秋会長。

米田さんは、同市農業委員として7年目。今年7月に会長2期目に入った。口田路(くちとうじ)地区の区長と営農組合長でもある。

米田さんは個々の農家で営農を考えるのではなく、集落でまとまらないと山間部の農村は存続できないとの考えから、4年前に集落営農の組織化に取り組み、2年がかり



で設立した。

「私が区長になってから、集落の出役を多くしました。溝掃除や山の間伐、川沿いの桜の手入れなど、農家も非農家もなく34戸全員が参加し、集落の環境を守るようにして

「委員は、何でもいい、できることから取り組むこと。火付け役です」と話す米田会長

います。集落を一つの家族と考え、家族が暮らす環境を守るために助け合うのは当たり前です」と米田さんは話す。

集落がまとまったことで、「コウノトリ育む農法」への取り組みなど営農面だけでなく、移住希望者の集落への受け入れも実現した。来年には集落営農組織の法人化をめざすという。

「委員には農家の信頼に込め、地域を引っ張るリーダーになってもらいたい」と米田さんは話す。

農家の信頼に応え地域を引っ張る